

こんなところにスリランカ！

山口市立宮野小学校 教頭 井上 秀雄

(平成19年度派遣 スリランカ コロンボ日本人校)

「スリランカ」と聞いて、みなさんは何を思い浮かべるでしょうか。「インドの下にある島国で紅茶が有名」とお答えになる方が多いですが、あまりなじみのある国とは言えません。

「コロンボ日本人学校」と赴任先の連絡を受けた時にも、家族みんなで首をかしげ、これからどんな生活が待ち受けているのか、期待よりも不安が大きかったことを覚えています。

しかし、そんな思いをあっという間に払拭するほど、人情に厚い国民性と豊かな自然に心奪われてしまいました。帰国して14年過ぎましたが、我が家のスリランカへの愛着はまだ冷めることはありません。山口の地で体感できるスリランカをご紹介します。

スリランカってどんな国（基礎データ）

国名	スリランカ民主社会主義共和国
首都	スリ・ジャヤワルダナプラ・コッテ
公用語	シンハラ語 タミル語（連結語 英語）
民族	シンハラ人（約75%） タミル人（約15%）
宗教	仏教(70%) ヒンドゥ教(13%) イスラム教(10%) キリスト教(8%)
面積	6万5,610 km ² （北海道の約0.8倍）
人口	約2,218万人（2022年）

1. 紅茶のフェアトレード

スリランカの主要産業である紅茶の生産は、紅茶農園プランテーションで行われています。農園の労働者の多くは、かつて植民地時代にインドから強制的に移住させられたタミル人です。その居住環境は決して恵まれたものではなく、狭い長屋に5、6人で生活し、農園で生涯を過ごす方が多いようです。また、労働者の高齢化が進み、茶葉の手摘みは大きな負担となっています。

私たち消費者が高品質の紅茶を飲むために、生産者の労働環境や生活が十分に保障されなくてはなりません。ところがこれまで途上国で生産された食料品などが驚くほど安い価格で販売されていることがありました。その安さを生み出すために、正当な賃金が生産者に支払われなかったり、生産性を上げるために農薬が多用され環境が破壊されたりするという事案も起こっているようです。



【国際フェアトレード認証ラベルの付いた商品】

この状態を改善するためにフェアトレード（公平・公正な貿易）の仕組みを構築する必要性が世界で主張されています。このフェアトレードにより、開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することが可能となり、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善を促すきっかけとなります。

市内で買い物をしていると「フェアトレードマーク」が記載されている商品を目にすることがあります。紅茶に限らずフェアトレードにより輸入された商品を購入することで、持続可能な生産と自由貿易の適正化に貢献することができます。少し関心を持って商品を手にとってみてはいかがでしょうか。

(参考資料：日本フェアトレード委員会HP)

2. スリランカ象

10年前に周南市の徳山動物園にスリランカ象「ミリンダ」と「ナマリー」がやってきました。

スリランカでは象が神聖な生き物と考えられています。スリランカ政府は象を保護するため、親を亡くしたり、群れからはぐれたりした子象を保護するために「ピンナワラ象孤児院」を設立しています。2頭の象もその施設で保護されていたそうです。

とても立派なゾウ舎が建設されており、今は2世誕生も期待されているとのこと。休日に何度も足を運び、のんびり歩く象を眺めてはいつも癒やされています。



【いつ見ても癒やされます】

3. ボランティア活動

赴任当時は小学生だった娘が、スリランカでの経験から国際交流に携わるボランティア活動に参加するようになりました。

スリランカでは、都市部から離れた村のインフラ整備は充分進んでおらず、雨期には水没する道路が多いです。その道路を整備し、地域の産業や人々の生活を支えるために、多くの若者が開発途上国に出向き、交流を深めています。

おわりに

在外教育施設派遣の経験により、身近にあるものや出来事に対する見方や感じ方が変わり、家族の生き方にも大きな影響を与えています。

山口で生活していても、世界の人々との交流は可能です。国際理解教育に関心ある先生方を一人でも増やし、背中を押してあげたいと思います。



【ポーピティヤ村のホストファミリーと】